

長設養特朝大
件事殺刺

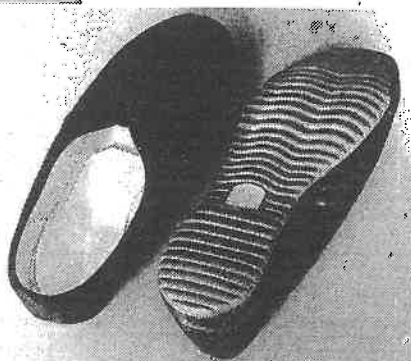
県警、似顔絵を公開

容疑者の靴と同型品も

昨年十二月、大朝町大宮追が刺殺された事件。履いていたとみられる靴の特別養護老人ホームで、県警捜査本部(可部)の同型品を公開した。「やすらぎ」前施設長、署)は八日、容疑者とも発生からちょうど五カ月、延べ約五千人の捜



容疑者が履いていたとみられる靴の同型品



査員を投入したが、有力な手掛かりは得られていない。似顔絵は二種類あり、ともに作業員風。Aは四十一・五十代で、身長一六五―一七五センチ、丸顔のやせ形。Bは四十代で、身長一七〇センチ前後、短髪の面長。やせ形、やや色黒で、えりに白い毛が付いた若草色の作業服を着ていた。

Bと、約二百メートル離れた道を、ホーム職員や住民に目撃されている。事件当時は既に周囲が暗かった。また、凶器と郷田さん

が八日、修復された。石灯ろうは、高さ約二・四メートル。境内の被爆納骨塔の正面に二基建てられていたが、うち一基が差予地震で倒壊。被爆時の別院の中山知見・輪番は「元通りになるか不安だ。今後は原爆のすさまじさを伝える教材として多くの人に見てもらいたい」と話していた。

靴は、現場に残された靴跡から割り出した。布製の作業用で、裏にゴムの子作り止めがある。色や正確なサイズは特定できず、捜査本部は全国的に大量販売されているタイプメーカーも断定できない」としている。

捜査本部の調べで、郷田さんは十二月八日午後五時半ごろにホームを出た後、ホームの駐車場で

の携帯電話、眼鏡などは未発見のまま。先月二十六日には機動隊員ら四十人で、ホームからバツグがあった千代田町までの道路わきを捜索したが、見つからなかった。

現在三十三人が専従で聞き込みなどを続けている。可部署は082(812)0110。